

鴻巣市立下忍小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

学校評議委員会やPTA運営協議会、学校だより等を通して学校応援団活動の案内や呼びかけを行い、数年後を見通した運営を行っている。

(2) 感謝の会の設定

学校応援団を含めた地域の方々に対して「ありがとう集会」を開催している。案内状やプレゼントを児童が手作りで作成することで、より自分たちの生活が、たくさんの方々に見守られていることに気付き感謝の思いを伝える場になっている。

2 特徴的な活動内容

(1) 個に応じた学習支援と体験活動の充実

ミシンの使い方等、専門的な知識・技能に触れ、的確な助言を得ることや、総合での生け花体験や田植えの体験活動を通して児童が意欲的に学習に取り組んでいる。

(2) 潤いのある図書館と読書活動

図書の貸し出し、返却作業、書棚整理のお手伝いや季節感あふれる掲示物、おすすめの本コーナー、読書情報の掲示等を児童の目線で作成していただき、親しみのある図書館となっている。また、毎週月曜日に行っていただく読み聞かせによって子どもたちの読書に対する興味関心が高まり、活動が活発になっている。

(3) スクールガードリーダーを核とした登下校の見守り

応援団組織とPTA組織、地域の方の見守り隊がそれぞれ児童の安全な登下校を見守ってくださっている。登下校の見守りをいただいているおかげで教職員の見守り活動が短縮化され、働き方改革にもつながっている。

(4) 校庭の芝生化の推進

週に1回の芝生の手入れをしてくださった。青々とした芝生の上で児童が元気いっぱい遊んだり運動したりすることができている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

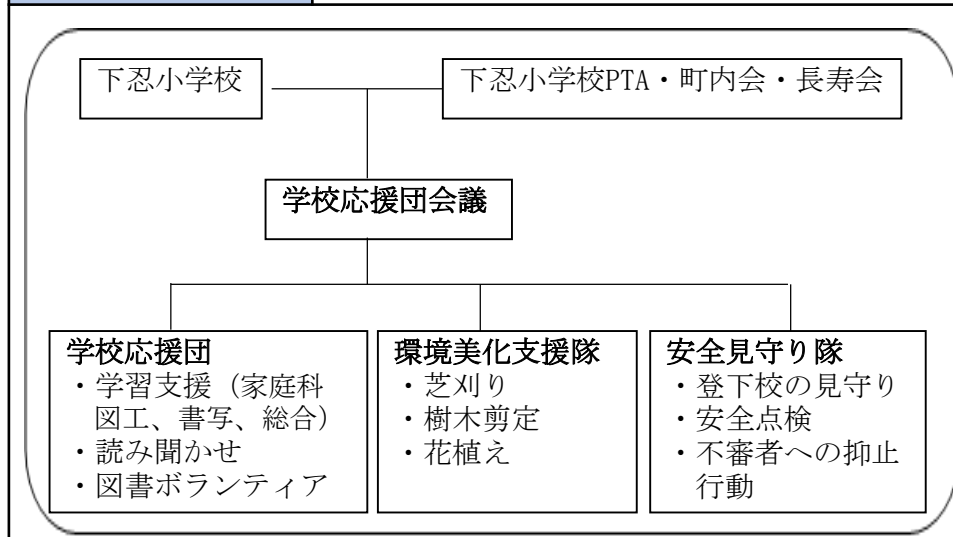
- ・毎日の登下校の見守り活動のおかげで、児童が安心安全に登下校できている。
- ・学校の教育活動を理解してもらえ、場や改善に向けての意見をいただくことで学校教育活動の充実を図ることができている。

(2) 地域の声

- ・子どもたちと触れ合うことで元気をもらっている。
- ・知り合いになった子に学校の外であいさつをしてもらえ、嬉しい。

学校基本情報

児童数	465名	学級数	17学級
コーディネーター数 (担い手)	7名 (町内会長6、PTA副会長1)		



〔芝生ボランティアの整備作業〕



〔児童の田植え体験〕

戸田市立美谷本小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

<学習活動への支援>

- 消防署の見学等の校外学習時の移動の付き添い
- 学校行事（スポーツfest.、音楽会）でのお手伝い

<環境整備への支援>

- 除草作業・花壇整備・植木剪定
- 施設清掃・施設修繕

<安心安全への支援>

- 登下校の子供見守り隊・学区巡回
- 学校行事（持久走記録会）でのお手伝い
- 非常災害時の避難所設置・防災訓練

2 特徴的な活動内容

- 全校読み聞かせ活動：おはなしの森・おはなしたまご
- 教科：
 - 生活科「昔あそび」・「野菜の栽培」
 - 家庭科「ミシン」
- 総合的な学習の時間「昔の美谷本小学校」「車いす体験」等

3 成果と地域の声

(1) 成果

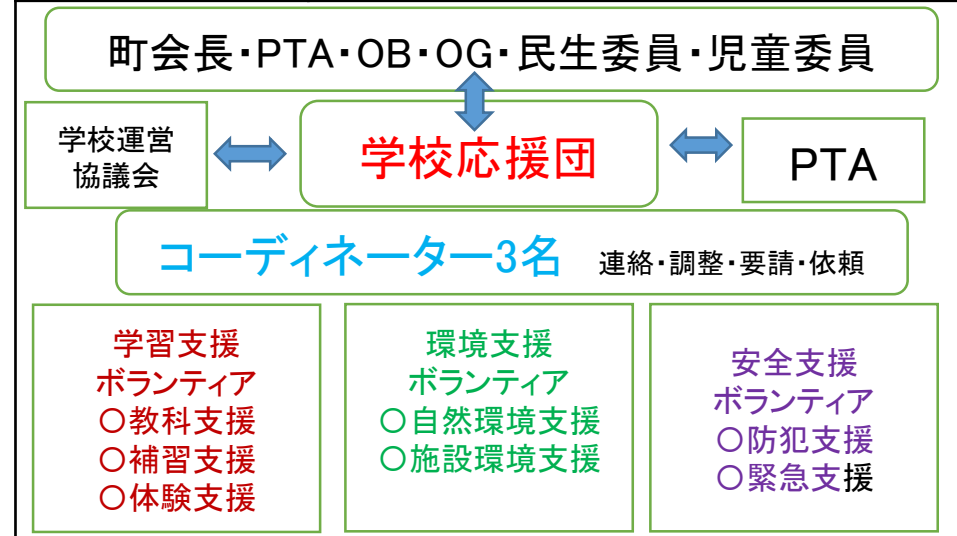
- 応援団の支援により、児童の学習意欲が高まり豊かな活動となった。
- 特色ある教育活動の一層の充実が図れるよう、支援の内容を工夫改善していきたい。

(2) 地域の声

- 子供たちに元気をもらい、とても嬉しい。来年もぜひ教えにきたい。
- 育てた野菜の収穫をして、子供たちの笑顔が見れてよかった。

学校基本情報

児童（生徒）数	315名	学級数	14学級
コーディネーター数 （担い手）	3名 （学校運営協議会委員、元PTA会長等）		



2年生生活科
「さつまいもの苗植え」



6年生 総合的な学習の時間
「昔の美谷本小学校について」

和光市立第二中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

・学校応援団の活動広報

本校は近隣施設の関係者が多く、人事異動が頻繁にあり地元で根付いて生活する家庭が多くない。そのため、他校で見られるPTAのOBを中心にした学校応援団ではなく、現役世代でのPTAと兼務の学校応援団となっている。

学校を応援する組織として、必ず学校と関われるようにと「一人一役」の目標を掲げ、学校のことに様々な局面に保護者を当てている。

活動の様子が見えるように、PTA運営委員会だより、PTA広報紙（紙媒体配布からデジタルデータでメール送信へ変更）、学校ホームページを活用している。

2 特徴的な活動内容

朝のあいさつ運動（始業式～1週間）、成人する自分への作文（企画（2月）・成人式で新成人への配布（1月））、環境美化（花壇整備・落ち葉掃き・除草作業）、学校行事のサポート（体育祭・合唱祭・卒業式）、夜間パトロール（各学期）、読み語り（聞かせ）（週1回）、制服リサイクル

3 成果と地域の声

(1) 成果

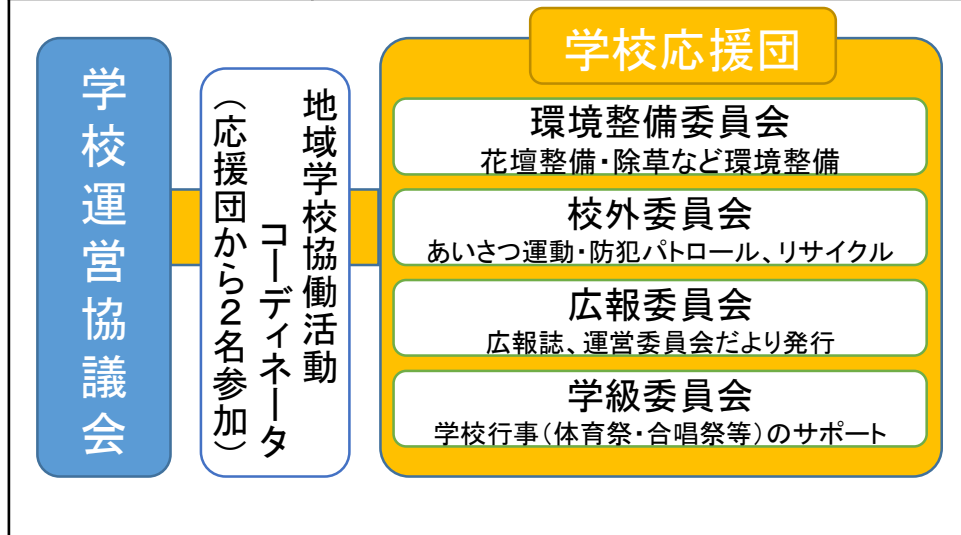
- ・どの活動においても保護者と教職員が協力して取り組んだことで、学校との一体感が生まれ、生徒たちも自分の通う学校のためにいろいろな大人が取り組んでくれたり、見守ってくれるという気持ちを醸成することができた。
- ・体育祭は一般公開なしで行ったが、3年ぶりに保護者へ公開した合唱祭はPTAの支援で大きな混乱もなく、保護者の入替えもスムーズに行うことができた。

(2) 地域の声

- ・学校応援団として学校と関わる機会を得ることで、生徒たちのいろいろな表情や様子、どんな子と自分の子が関わっているのかを見ることができてよかった。
- ・活動を通して、人のつながり、地域のつながりを実感でき、自分たちの地域の子供たちを支えていきたい。

学校基本情報

生徒数	508名	学級数	17学級
コーディネーター数 (担い手)	15名 (PTA会長1、副会長3、書記2、会計2、監査1、学級委員長1、広報委員長1、校外委員長1、環境美化委員長1、卒業対策委員長1、顧問1)		



〔花壇整備の様子〕



〔秋の落ち葉掃きの様子〕

新座市立東野小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- ◎「地域とともにある学校づくり」を目指す
 - ・学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制作り
 - ・地域の多様な経験や技術を持つ人たちとの連携・協働(外部人材の活用)
 - ・子供たちの安心、安全な環境の確保
 - ・できる人が、できる事を、できる時に、できる範囲で

2 特徴的な活動内容

(1) P T A ・地域と連携した常時活動

- 安全部・・・シルバー見守り隊、スクールガードリーダー
- 学習部・・・ぱたぼん、図書ボランティア、農業支援員、漢字検定お手伝い、父親の会
- 環境部・・・ちょこボラ、東野ガーデナー

(2) 体験的な学習 父親の会による「ミニ四駆教室」(昨年度新企画)

令和3年7月4日(日)体育館にて、昨年度新企画の「ミニ四駆教室」を行った。説明書を見ながら細かい部品を組み立てていくことは、今の子供たちにとってはなかなか難しい作業だった。しかし、父親の会の方々が細やかに支援してくださり、見事に仕上げることができた。

最後は、できあがったミニ四駆をコース上にて走らせて楽しんだ。今回は、コロナ対策もあり、参加が抽選となってしまったので、今後も実施していく予定である。今年度は2月ごろ実施予定。

(3) 働き方改革への取組

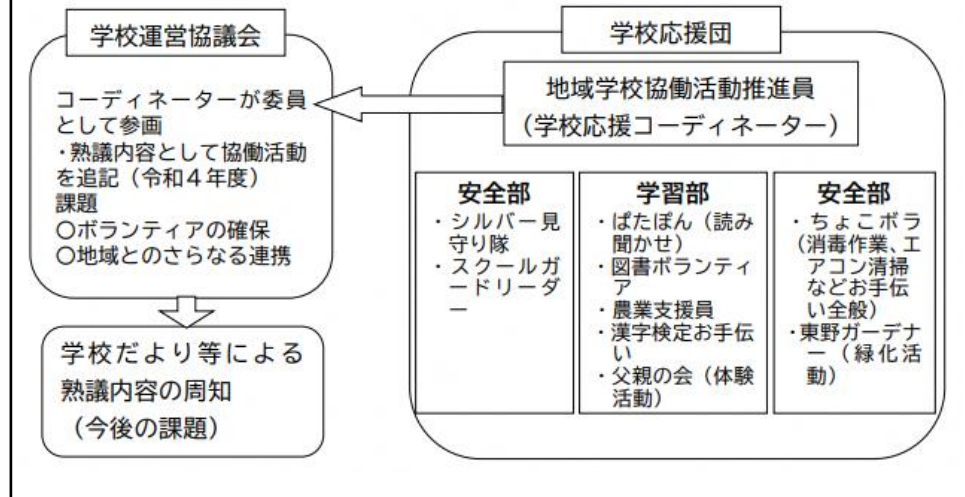
児童の登下校時の見守り活動や環境面や学習面での日常的なサポートにより職員が教材研究を含め子供たちに向き合える時間の確保につながっている。職員の超過勤務時間は令和4年4月から11月まで教職員全体の平均が45時間超20.7%(昨年度31.1%)、80時間超0%(昨年度1%)となり減少している。

3 成果と地域の声

- 成果
 - ・各団体の方々が工夫をし、活動を続けることができた。
 - ・父親の会では、新しい企画を実施することができた。
- 地域の声
 - ・今後も子供たちのために活動したいという声が多数上がった。
 - ・参加者自身も楽しむことができ、継続的に活動したいとのことである。

学校基本情報

児童(生徒)数	736名	学級数	25学級
コーディネーター数(担い手)	1名 (学校運営協議会委員1)		



〔ミニ四駆教室〕



〔ミニ四駆教室〕

桶川市立桶川東中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

○環境整備活動への取組

- ・コーディネーター（PTA会長とPTA執行部の学校応援団担当）と学校担当（教頭）が中心となり、活動のコーディネートや地域との連携を担っている。
- ・各部活動の顧問が中心となり、生徒や保護者、そしてコーチ（地域在住）が、作業日に活動日を合わせて環境整備を行っている。
- ・学校運営協議会委員の地域とのつながりを生かした人材確保等について、助言を得ている。

2 特徴的な活動内容

○除草、花植えや樹木の剪定、校地内の環境整備

- ・花壇の整備、除草
- ・樹木の剪定
- ・校地内整備についてのアドバイス

○活動の方法

- ・部活動の生徒が参加して、保護者や地域の方々と環境整備をする。初めの会と終わりの会では、部活動の部長から挨拶をして感謝を伝えることにしている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

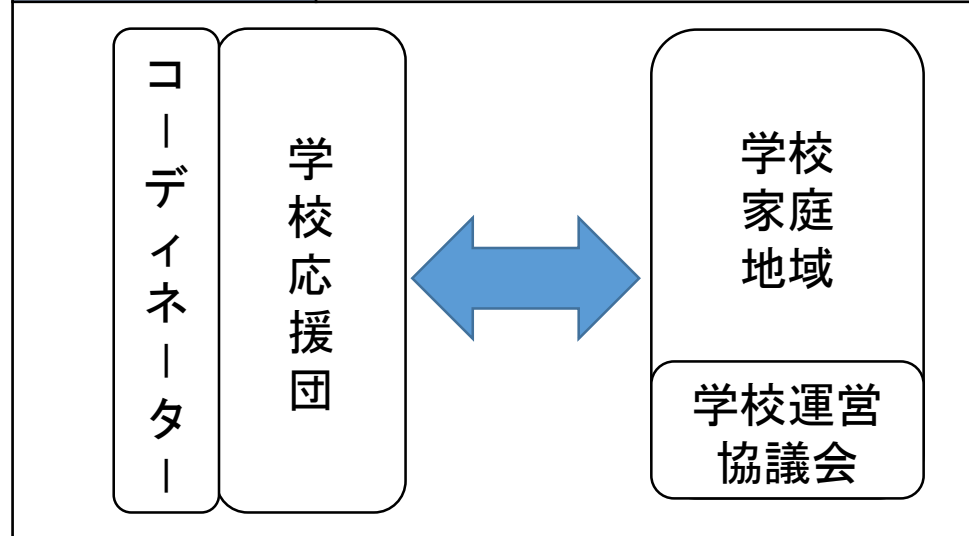
- ・校地内の環境整備がすすみ、生徒の過ごしやすい環境になった。
- ・地域、保護者、教職員、生徒が協働して実施することで、生徒が地域で生活する様子、それぞれの立場からの意見や質問について、お互いコミュニケーションをとることができ、教育活動にも生かすことができる。

(2) 地域の声

- ・生徒と共に活動することで元気になる。
- ・活動のお知らせが郵送されることで励みになる。

学校基本情報

児童（生徒）数	408名	学級数	14学級
コーディネーター数 （担い手）	2名 （PTA会長、PTA学校応援団担当）		



地域と保護者による環境整備



部活動の生徒も参加した環境整備

北本市立東小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 学校の実態に即した人材の募集

4月に学校応援団のこれまでの活動内容を見直し、今年度の教育活動に必要な人材の再確認をした。そこで、校内の掲示物を更新することや校舎内を明るい雰囲気にするを目的に、掲示・ベルマークボランティアを新設し、10種のボランティアを募集することにした。(安全、挨拶、花と緑、落ち葉掃き、音楽、図書、掲示、ベルマーク、家庭科、昔遊び、学習)

(2) 学校だよりを通じた地域への周知

幅広く保護者や地域の方々に学校応援団を知っていただき、ご協力いただくため、今年度は5月の学校だよりに学校応援団の募集の記事を掲載した。各自治会の回覧板で地域に周知するとともに、全ての保護者が目にする学校だよりを活用することで、新規の応募があり、学校応援団の規模を拡大することができた。

(3) 自主的・計画的な活動

5月に学校応援団連絡会議を開催し、学校側から具体的な活動を依頼し、コーディネーターを中心にボランティア活動計画を立てていただいた。

活動内容と時期を明確にすることで、個々の自主的な活動とグループによる計画的な活動が展開されるようになった。

(4) 児童との交流(感謝の会)

3月に学校応援団の皆様を招待し、全校児童が書いた手紙を代表児童が読み、感謝の意を表すとともに交流を深める機会としている。

2 特徴的な活動内容

(1) 技能教科への学習支援(家庭科・音楽・生活科学習ボランティア)

ミシンや包丁、カッター、歌唱、楽器演奏指導など、専門性が高い内容や安全面への配慮が必要な学習に支援に入っていたり。家庭科では、4人程度入っていたり、分担して指導に当たることで、個別支援が充実し、児童にとって安全で楽しい学習となっている。

(2) 除草・落ち葉掃き等による美化(花と緑・落ち葉掃きボランティア)

夏の除草作業、秋の落ち葉掃き、花の植え替えなど、校地内の美化活動に月に1回程度活動していただいている。おかげで、きれいな環境が整備され、気持ちよく学習活動を展開することができている。また、教職員の負担も大きく軽減させることができた。

(3) 地域見守り隊活動(安全ボランティア)

学区内のスクールガードさんを中心に、児童の登下校を積極的に見守っていただいている。その結果、教職員が児童の登校指導に携わる回数が年2回(1回約15分)となり、大幅に負担を軽減させることができた。

3 成果と地域の声

(1) 成果

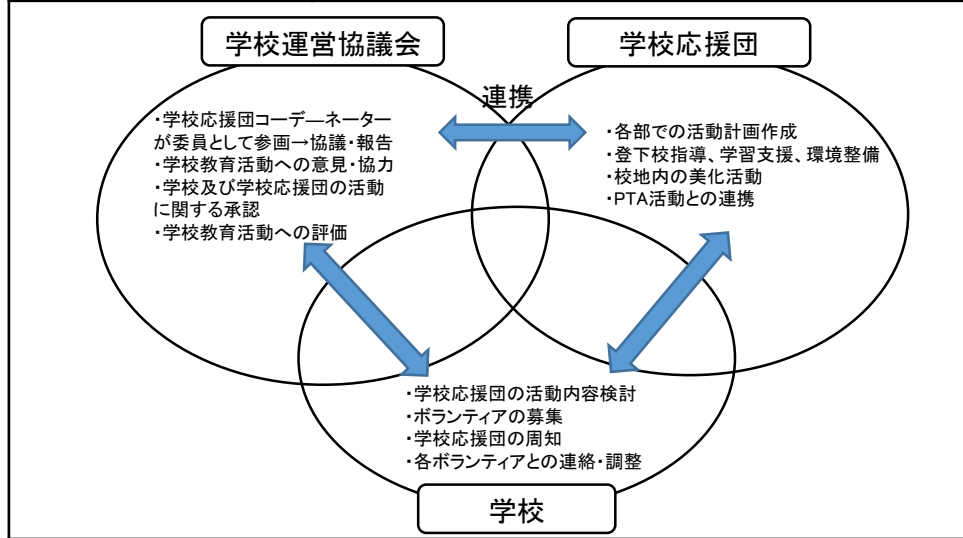
- ・除草などの美化活動、掲示などによる校内の環境整備、学習支援により、安全で快適な学習環境が整えられている。
- ・実態に即したボランティアを募集することで、教職員の負担軽減につながっている。

(2) 地域の声

- ・挨拶や学習を通して児童とボランティアが関わりを深めることができた。今後も児童の安全確保や学習環境の充実に貢献していきたい。
- ・働き方改革を進めるのは難しいと思うが、南部コミュニティも学校に協力してもらいたい。今後も学校の教育活動の充実のために協力していきたい。

学校基本情報

児童(生徒)数	396名	学級数	17学級
コーディネーター数(担い手)	1名 (学校応援団コーディネーター)		



〔学習ボランティアによるミシン指導〕



〔安全ボランティアによる見守り活動〕

伊奈町立南中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

学校運営協議会委員（8名）で、今年度の方針を定めている。学校運営協議会委員はPTAから2名、地域の方6名で構成されている。コーディネーターは10年以上引き受けてくださる方で、元区長などの経歴もあり、地区の回覧板での呼びかけも行っている。幅広い方々に学校応援団に関わっていただくため、学校HPや、学校の配信SNS等を活用し、学校応援団への募集のお知らせを行うとともに、学校応援団としては登録していない保護者にも、時間の許す限りの協力を求めているので、人材は確保しやすい状態である。

(2) 他団体との連携

学校施設開放（体育館や武道場）で登録している団体にも協力を依頼している。

2 特徴的な活動内容

(1) 花の定植活動

生徒のボランティア活動（毎回40人程度の応募）に、地域の方に見守りに入っていただくことを伝統としている。町の「花いっぱい運動」の一環で、予算もあるため、毎年春に300株、冬には球根なども含め200株ほどの花の定植を行っている。土づくりは、事前に大人の協力者（校務員や学校応援団）にやっていただき、定植にかかる生徒の活動としては放課後30分程度で終わることにより、教員の負担がかなり減っている。

(2) 年2回の環境整備活動（土日の活動）

コーディネーターからの依頼文書を郵送し、年に2回程度の大々的な環境整備（草刈り機やチェーンソーなどの必要な除草や樹木の伐採）を行っている。令和4年度は2年ぶりの開催となったが、施設開放で使用している空手や柔道の子供たちやその保護者も含めると150名程が集まっていた。 (1回目 テニスコート整備、2回目 草刈り)

3 成果と地域の声

(1) 成果

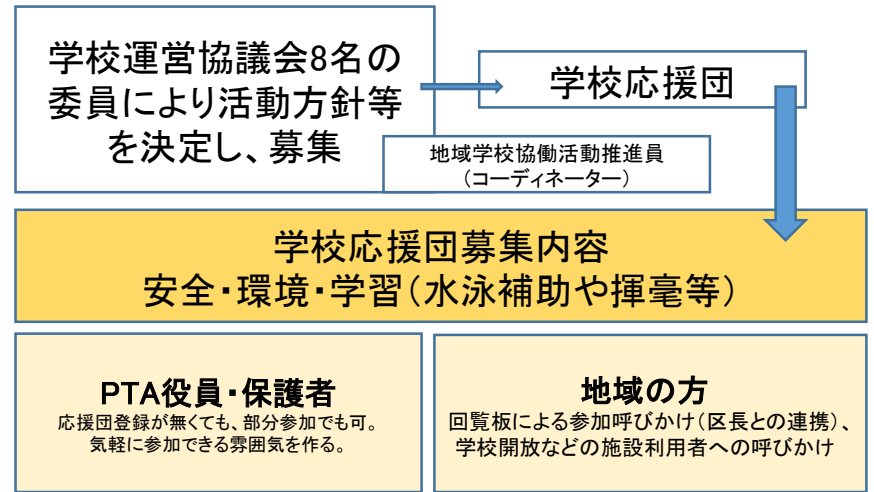
- ・学校環境整備に必要な人手が集まるルートが再確立できた。
- ・保護者も気軽に参加できるようになり、人材確保に役立っている。

(2) 地域の声

- ・2年ぶりの開催がうれしい。いつも施設を無料で貸してもらっているが、何かをしたいと思っていたので、また機会があったら参加したい。

学校基本情報

生徒数	255名	学級数	10学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (学校運営協議会委員・学校応援団長兼)		



〔椅子の解体〕



〔環境整備〕

飯能市立名栗小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

本校は地域とPTAが緩やかな組織で活動を行っている。意図的に人材を集めるわけではないが、必要な時に、その分野を得意とする方々が力をかしてくれている。

(2) 他団体との連携

子どもたちの体験活動充実させているため、企業の協力、名栗で活動している団体の協力を得ている。

2 特徴的な活動内容

(1) クラブ活動

クラブ活動の一環として、カヌー体験を実施している。カヌー工房の皆様のお力添えをいただき、4年生から6年生までが、年4回カヌー体験をすることができた。

(2) 総合的な学習の時間

3～6年生の総合的な学習の時間において、保護者、地元の方が得意とする分野で力を発揮していただき、子ども達の興味・関心が高まった。名栗を愛する子ども達を育てることを目指し、教育活動を展開している。

3 成果と地域の声

(1) 成果

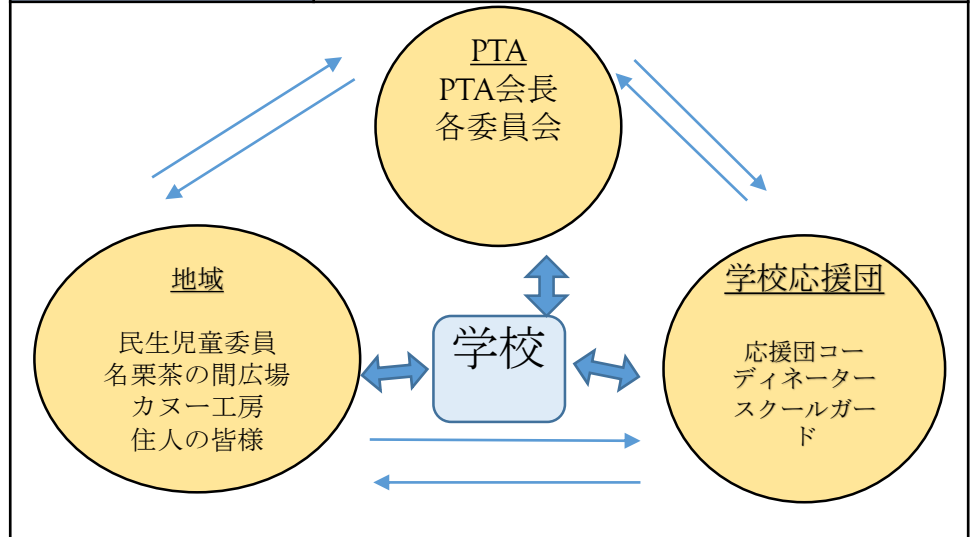
- 子ども達が、地域の方々からたくさん声をかけてもらったり、高齢者の皆様にもらえたり、「相互理解、相互援助」の関係を構築するきっかけになった。
- 名栗でしか体験できないことを教育活動の中で体験できた。

(2) 地域の声

- 可能な限りたくさん学校とかかわりをもちたい。

学校基本情報

児童（生徒）数	37名	学級数	6学級
コーディネーター数 (担い手)	2名 (地域住民2)		



〔カヌー体験〕



〔総合的な学習の時間
～茶の間広場～〕

東松山市立唐子小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- (1) 学校運営協議会との連携
学校運営協議会での熟議を通し、学校及び地域の課題が明確になる中で、学校応援コーディネーターが委員のメンバーであることから、地域の安全見守り等、学校応援団と共有・連携して課題解決に取り組んでいる。
- (2) いんぷおメール等を活用した情報共有
地域に回覧する学校だより・PTA活動内容（資源回収・広報誌等）のお知らせを使い、学校の教育活動を積極的に発信している。さらに、学校応援団の方々にもメール登録をしていただき、安心安全情報・下校時刻の変更等の情報も共有し、地域で子供たちを支える環境を構築している。

2 特徴的な活動内容

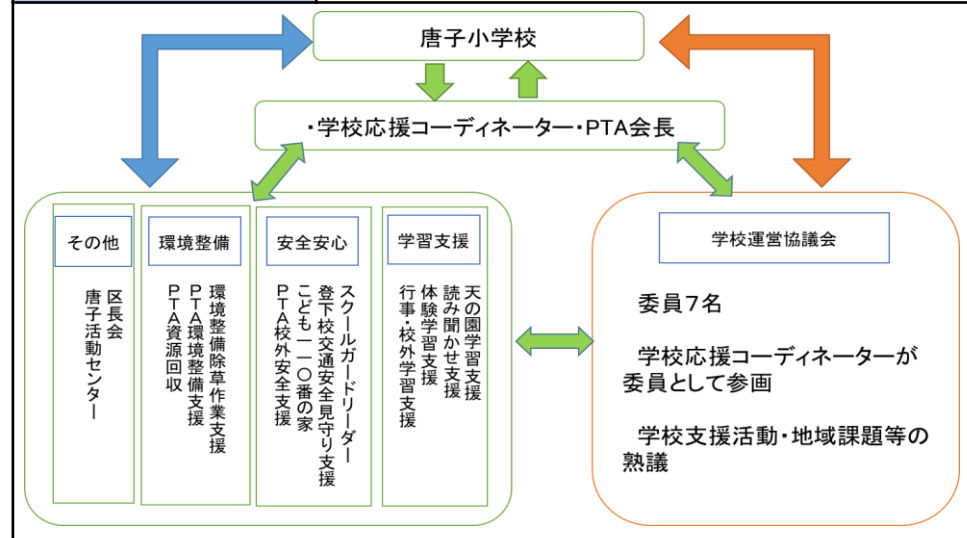
- (1) 地域の宝（小説）「天の園」を中心とした、学習の充実
天の園ボランティアの方々による体験学習を実施。4年生以上の学年では、年間で計画を立て、読み聞かせ活動を実施している。また、総合的な学習の時間に、「天の園」にまつわる調べ学習をし、11月に体験学習を行っている。地域をめぐるフィールドワーク・郷土料理の再現・絹織物等天の園が舞台となった当時は再現することで、地域・郷土についての理解と愛着を深めることができている。
- (2) 登下校の見守り
校区が広範囲にわたる本校では、登下校の安全確保のため応援団の取組が重要となっている。下校時刻について、月の予定配布の他、メールを活用して周知し、スクールガードリーダーや学校応援団、地域の見守り隊の方々を中心として、日々の登下校の見守りを行っている。また、保護者・自治会等地域全体が応援団として活動してくださっている。

3 成果と地域の声

- (1) 成果
 - ・自分たちの地域を知ることにより、地域愛を深めることができた。
 - ・見守り支援を地域全体で取り組むことで、子供たちが安心・安全に登下校することができている。
- (2) 地域の声
 - ・地域のよさに触れられることは、子供たちにとって大きな財産である。
 - ・登下校時、挨拶を交わっていた児童が高校生へと成長し、何人も近況報告に来てくれた。地域で見守りを続けてきてよかったと思う瞬間である。

学校基本情報

児童（生徒）数	307名	学級数	13学級
コーディネーター数 （担い手）	1名 （学校運営協議会委員）		



〔「天の園」読み聞かせ〕



〔登下校の見守り〕

狭山市立新狭山小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

本校の学校応援団は、保護者ボランティアと市の学校支援ボランティアセンター（SSVC）とで構成されている。保護者ボランティアは毎年募集し、児童が卒業後も継続して参加して下さる方もいる。登下校の見守りや図書の読み聞かせ、かけ算九九検定の聞き取り、家庭科や書写の支援など幅広く活動し、できる人ができることに取り組むことで活動が支えられている。

2 特徴的な活動内容

(1) 登下校の見守り

登下校の見守りはスクールガードリーダーと学校応援団、保護者が中心となり行っている。毎朝、見守りを行ってくれているので、職員の始業前30分程度の登校指導が無くなり、ゆとりをもって始業を迎えられるようになった。

(2) 体験活動の支援（お茶・稲作）

地域の農家さんのご協力で稲作体験と茶摘み体験を行っている。稲作体験は春に田植え体験、秋には稲刈りと脱穀体験を実施した。お茶では茶摘み体験、手もみ茶体験を実施した。体験当日は地域の農家さんに加え保護者ボランティアや学校応援団の協力のもと児童が真剣に体験活動に取り組むことができた。

(3) 学習支援（かけ算九九検定・ミシン・書き初め）

2年生のかけ算九九、3年生から始まる習字、5年生からのミシンなど、確実にすべての児童に身につけてほしい技能は学校応援団の力を借りて支援を行った。その結果、全ての児童が確実に技能を身につけることができた。

(4) お父さんの会（ダディズ）

毎月1回、お父さんの力を借りて、校庭の側溝掃除や荷物の運搬、落ち葉清掃を行った。また、運動会前のテントの運搬や設営、運動会当日朝の校庭整備等を行った。職員の作業が大幅に軽減された。

3 成果と地域の声

(1) 成果

学校応援団の活動を通して、学校と保護者と地域の交流が深まり、学校教育への理解が深まった。また、地域との関係が一層よくなった。

(2) 地域の声

コロナ禍で活動が制限されている中だが、さらに学校のために何かできないかという声が上がっている。

学校基本情報

児童数	437名	学級数	15学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (学校支援ボランティアセンター)		

学校(教頭・教務主任)



連絡・調整

学校応援団

コーディネーター

- ・登下校見守りボランティア・学習支援・図書ボランティア
- ・園芸ボランティア・掲示ボランティア・音楽ボランティア
- ・清掃ボランティア・家庭科ボランティア・ダディズ



かけ算九九検定



読み聞かせ

富士見市立富士見台中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

本校の学校応援団の活動は、PTAと連携し、安全支援、環境支援を行っている。また、学校運営支援者協議会やPTA運営委員会から意見をいただき、活動の充実を図っている。

今後、これまでPTAで行っていた活動を学校応援団に移していくことで、PTA、学校応援団活動の精選を行い、より充実した活動となるようにしていく。

2 特徴的な活動内容

(1) 学校行事での支援

コロナ禍により、従来の受付業務に加え、来校時の検温・消毒、整列の声掛け等、学校応援団の皆さんに協力いただいた。

従来行っていた職場体験がコロナ禍によりできなくなったため、保護者や地域の方に呼びかけ、「働くことを考える講演会」を実施し、様々な業種の方から話を聞く機会を設けることができた。

(2) 安全面での支援

登下校の見守りを、中間・期末テストの時期に合わせて実施している。教職員とともに行うことで、生徒の安全面はもちろん、挨拶等の声掛けにより、生徒自身が地域の方に見守ってもらっているという意識がもてている。

学区が広いため、学校から遠い場所については、学校応援団やPTAの方々に協力いただくことで、教職員の負担軽減につながっている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

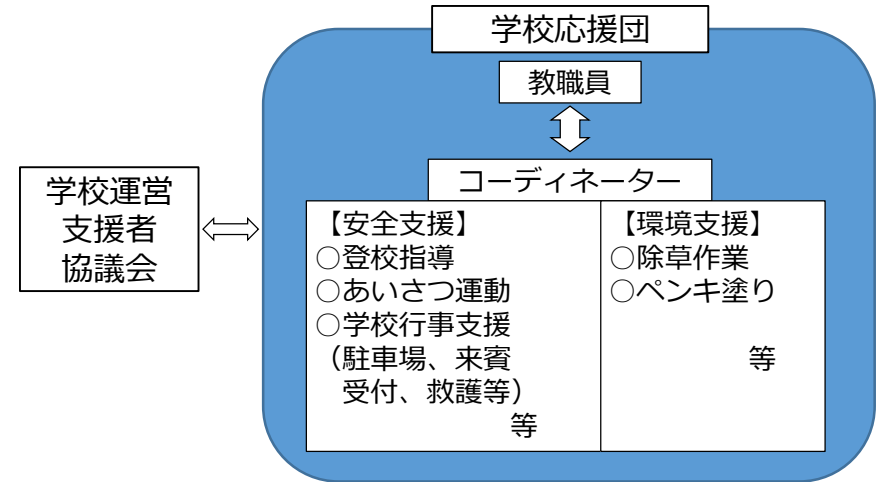
- ・教職員だけではできない部分をカバーしていただいております、行事のスムーズな運営につながっている。

(2) 地域の声

- ・行事での支援を行うことで、授業とはまた違った生徒の活発な様子が見られ、元気をもらっている。

学校基本情報

児童（生徒）数	548名	学級数	17学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (PTA会長)		



〔合唱コンクール 受付〕



〔働くことを考える講演会〕

坂戸市立城山学園の実践

1 充実・発展に向けた取組

「花を育て・学びの環境を作り豊かな心を育む」という思いのもと、主に学習支援と環境美化の面で、学校応援団の協力をいただいた。特に教室の外に出て活動を行う場面では準備から活動、片付けに至るまで、全面的に協力をいただいている。活動前には学級担任と入念な打ち合わせを行い、授業をより充実させるためのアドバイスをもらいながら協力して活動できているので、今後もこの取り組みを続けていきたい。

2 特徴的な活動内容

学習支援、環境美化、登下校の見守りなど様々な活動や支援を行った。「学びの道」と名付けられた校内の道を花で彩ったり、草刈りや落ち葉掃きを継続的に行ったりと、児童生徒に元気と勇気を与えるための活動に力を入れた。

(1) 学習支援

- ・チューリップの球根植え（1・5・6年） ・さつまいも栽培（2年）
- ・マリーゴールド、ほうせんか、ひまわり、綿の栽培（3年）
- ・ヘチマ栽培（4年） ・流れる水の働き（5年）
- ・人権の花の植え替え（7・8・9年生）
- ・オブジェ作り、野菜栽培（特別支援学級） 等

(2) 環境美化

- ・花植え（プランター、花壇）、落ち葉掃き、草刈り

(3) 登下校の見守り

- ・日々の見守り活動

(4) 読み聞かせ

- ・朝の読書タイムに各学級での読み聞かせ
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止策により、休止中。

3 成果と地域の声

(1) 成果

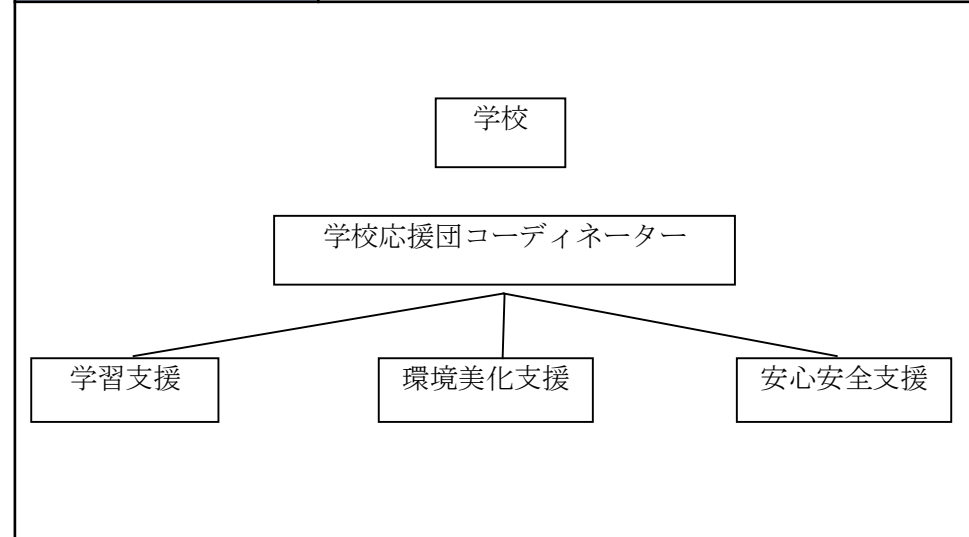
・応援団の方々に授業の支援していただいているおかげで、よりわかりやすく質の高い授業が実施できている。教師にとっては、時間的支援にもなっており、費用面でも大変助かっている。また、年間を通して、読み聞かせや校内花壇の整備などがされ、本への興味や身の回りの自然環境への関心が高まっている。子どもたちの心が豊かに育っていると感じる。

(2) 地域の声

・「学校応援団として子どもたちと関わる多くの場面で、先生方の視点とは別の角度から心の持ち方・感じ方（親の背中）を説くことが、微力ながら前進していると感じます。」「学校の外でも声をかけてくれる子がいてうれしいです。」という声をいただいた。

学校基本情報

児童生徒数	児童 86名 生徒 80名	学級数	小学校 8学級 中学校 5学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (学校運営協議会委員)		



〔チューリップの球根植え〕



〔人権の花の植え替え〕

鶴ヶ島市立南中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

市ホームページに学校応援団の案内を掲載している。現在のところ、当校には応募がない。コーディネーターについては、現PTA会長の引退時に、コーディネーターへの勧誘を行い、継続している。

(2) 他団体との連携

体制図のような組織的なコーディネートはできておらず、コーディネーターがPTA出身であることから、現PTAや青少年健全育成会と協力関係を構築している。

2 特徴的な活動内容

(1) 環境整備

① 除草・剪定・落ち葉拾い

南小学校応援団コーディネーター、南中PTA、南小PTAと連携して、南中および南小の除草・剪定作業を実施した。

学校周辺の歩道の落ち葉拾いを行い、地域と学校との境界（接点）の向上を図った。

② 資源回収

地域住民と協力し、資源になるものを回収業者に持ち込んだ。また、南中PTA主催の資源回収活動に参加して、紙・アルミ缶の回収を行った。

(2) 学力向上支援

地域のウォークラリー大会に実行委員として参画。ボランティアに参加した生徒の非認知能力の向上に貢献した。

3 成果と地域の声

(1) 成果

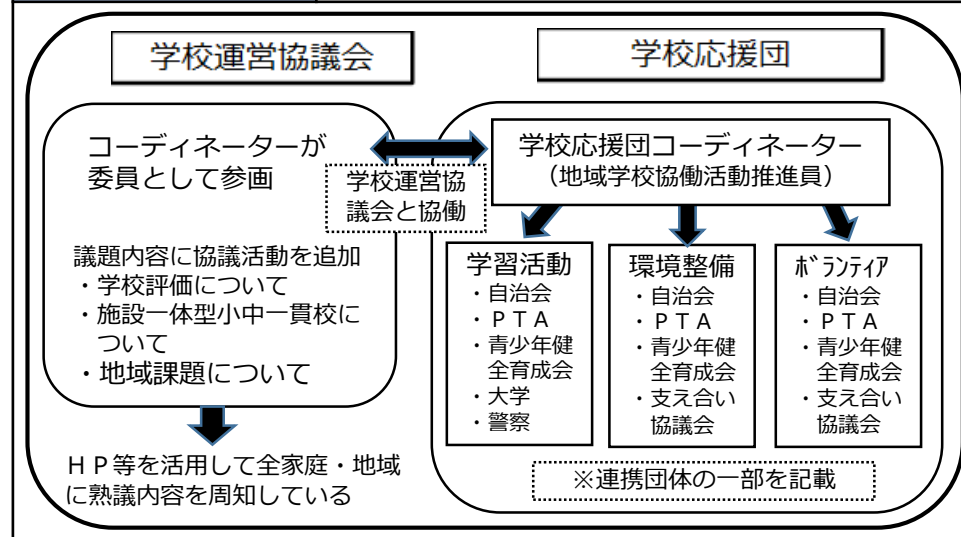
資源回収による収益金によって、PTAの活動支援、ひいては学校活動への支援につながった。

(2) 地域の声

歩道の落ち葉拾いを行った時に、通行人からねぎらいの声をいただいた。地域と接する活動を行うことが地域と学校の関係向上につながると考える。

学校基本情報

児童（生徒）数	247名	学級数	9学級
コーディネーター数 （担い手）	3名 （元PTA会長3）		



〔資源回収〕



〔落ち葉拾い〕

ふじみ野市立西原小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材確保

多くの方に学校に関わっていただく為に、年度当初に全家庭へ学校応援団の活動を紹介し、募集を呼びかけている。また学区内家庭に町会の回覧板を活用し活動の周知・募集を行っている。

(2) 広報活動

学校だよりや本校HPを活用し、活動を地域に紹介している。また、年度末に、高学年児童より活動協力者にお礼の手紙と手作りプレゼントを届け感謝の気持ちを伝えている。

2 特徴的な活動内容

- ・登下校の見守り活動
- ・読み聞かせ活動
- ・親子除草
- ・5・6学年家庭科学学習学習支援
- ・1・2学年校外学習学習支援
- ・学校花壇整備活動支援
- ・校地内環境整備活動



応援団による校地内環境整備
外水道・外トイレの塗装

3 成果と地域の声

(1) 成果

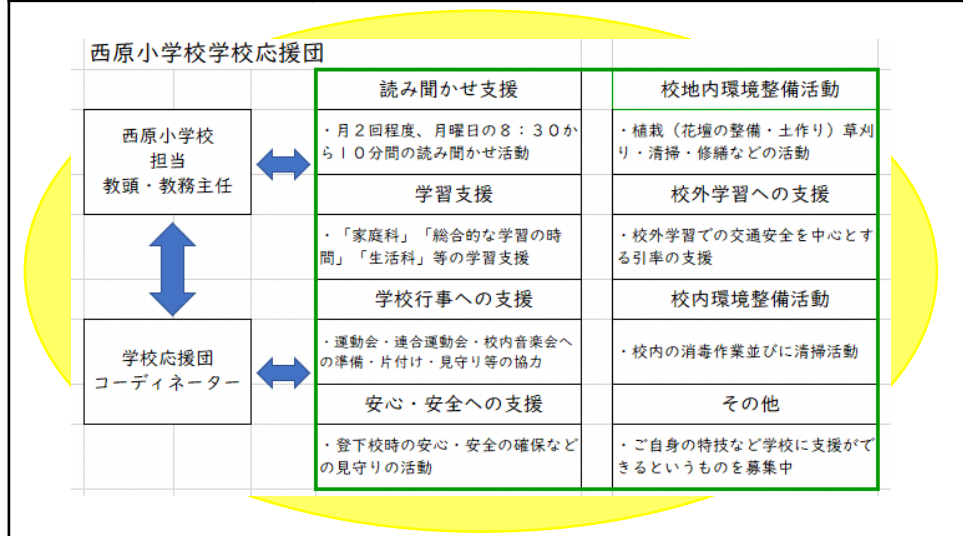
- ・学習支援を通して子供たちの学習意欲が高まった。また、児童の安全を確保した学習環境での活動ができた。
- ・老朽化していた外トイレと外水道の修繕が行われ、気持ちよく使用できる環境が整った。
- ・校地内の樹木の伐採が行われ、明るく整った環境で子供たちが学習できるようになった。
- ・応援団による環境整備が進むとともに、地域や保護者による環境整備が積極的に行われるようになった。

(2) 地域の声

- ・日々、環境整備が行われ、美しい学校である。地域が自慢できる学校である。近隣住民として、学校に協力できることがあれば積極的に行いたい。
- ・良い環境のもと子供たちが、学習を十分に行える環境作りのお手伝いを今後もしていきたい。
- ・登下校中に地域住民に丁寧なあいさつができる児童が多い学校である。

学校基本情報

児童（生徒）数	212名	学級数	10学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (元PTA会長)		



〔ミシンボランティア活動〕



〔校地内環境整備活動〕

三芳町立三芳東中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- 学校運営協議会との連携
コミュニティスクール発足時より、その一組織として、学校運営協議会と連携をとっている。学校運営協議会で出された意見をコーディネーターが集約し、PTAを中心とした各応援団活動におおす。また、熟議を通して得られた意見等も学校応援活動に反映される。

2 特徴的な活動内容

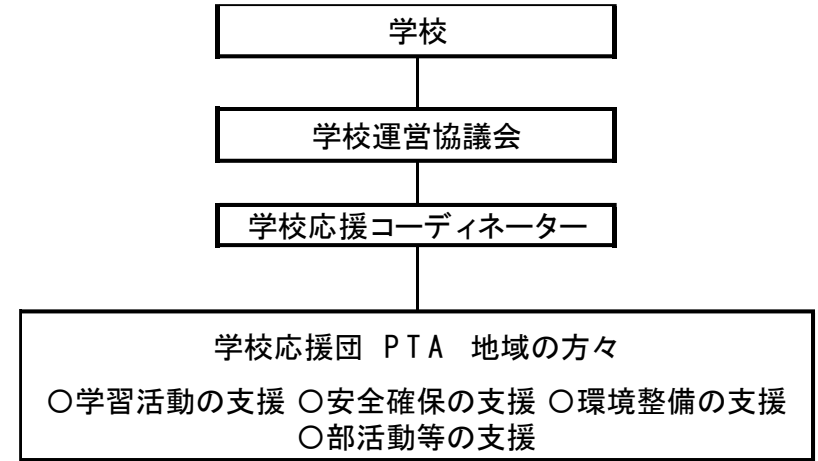
- 除草作業や花植えなどの校地内の環境整備を年間を通して行っている。
5月頃から7月頃（除草作業）2回、
9月頃から11月頃（除草作業、花植え）2回、
2月頃（花抜き、植え込み）1回 年間計5回の活動
その他常時水やりや除草シートの設置など環境整備を実施。
- 学校内の畑の手伝いを年間を通して行っている。
特別支援学級での学習で扱う野菜作りなどを支援。
近隣のボランティア3名の方々が参加できるときに来てもらっている。
- 部活動の補助を年間を通して行っている。
テニス部、吹奏楽部、剣道部、卓球部、バスケットボール部など地域の方々が、部活動の練習に参加し専門的な指導を実施。
- ※除草作業など教職員だけでは、追いつかないところを定期的に行ってもらったり、部活動で専門的な指導を行ってもらったりなどと教職員の負担軽減につながっている。

3 成果と地域の声

- (1) 成果
 - ・保護者や地域の人々との結びつきが強まり、地域の教育力が向上した。
 - ・地域の方々や保護者が学校運営に応援していただけることで、教職員の負担軽減につながっている。
 - ・生徒の多様な経験や体験が充実するようになった。
- (2) 地域の声
 - ・学校教育に携わることに前向きな声が多くあがっている。
 - ・ボランティアを通して、保護者同士の横のつながりなどができた。

学校基本情報

児童（生徒）数	374名	学級数	13学級
コーディネーター数 （担い手）	1名 （PTA会長）		



〔環境整備ボランティアによる緑化活動〕

毛呂山町立川角小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

○コーディネーターについて

ボランティアである「学校応援団」がコロナ禍でも円滑な支援を行うことができるよう、学校からの依頼を受けて、学校と学校応援団等との調整を行い、PTA組織も含めて、感染対策を十分に活動を行うことができた。

○学校教育活動の情報提供について

昨年度に引き続き、学校応援団の協力が必要な場合には、日頃から各学年の授業についての情報を、学年だより等を利用して保護者に周知し、多くの保護者が参加できるように工夫している。

2 特徴的な活動内容

○校内美化活動

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で活動した。全校で行った除草朝会では、地域の方と児童と一緒に除草作業を行った。またコーディネーターを中心に、学校の敷地内に生えた大量の草をきれいに刈ってもらった。教職員の負担軽減につながった。

○資源回収

年間2回、PTA組織を中心に資源回収を行った。よりよい児童の教育活動のために、保護者だけでなく地域の方にも協力してもらい、多くの資源を回収することができた。

○読み聞かせボランティア

月1回、地域の方を中心に児童に読み聞かせをしていただいた。児童も毎月楽しみにしている。本を好きになる児童の育成につながった。

3 成果と地域の声

(1) 成果

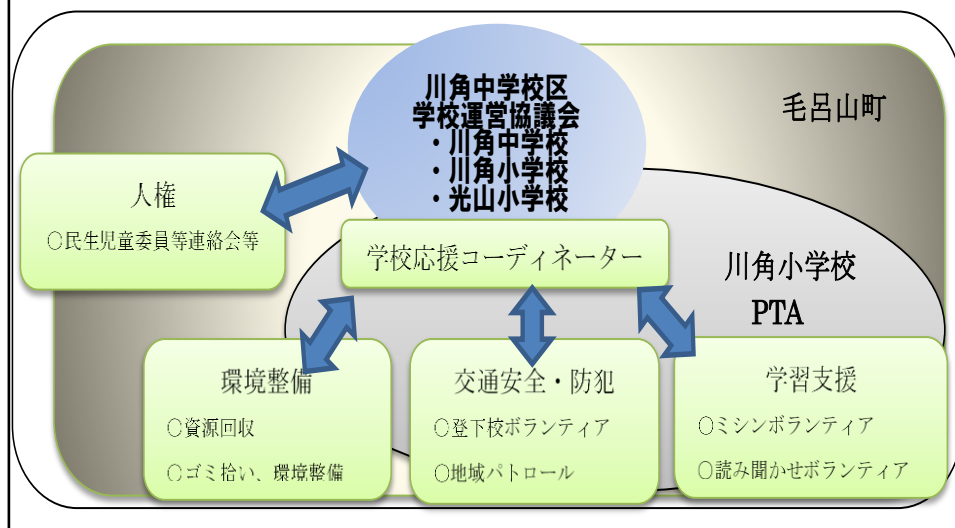
- ・コロナ禍で行事等が中止や縮小される中、感染対策を十分に行い、児童の学びのために様々な方の協力があった。

(2) 地域の声

- ・資源回収において、安全に回収でき、子どもたちのためになることができよかったですとの声があった。

学校基本情報

児童（生徒）数	360名	学級数	16学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (PTA会長)		



〔資源回収〕



〔除草朝会〕

小川町立大河小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) コーディネートの工夫

「おがわ学」の年間指導計画とテキストをもとに、授業を担当する教員と「おがわ学」を統括する教頭が連携して実践に取り組んでいる。その際、外部のゲストティーチャーとの連絡・調整としておがわ学コーディネーターを活用することで円滑な実践を実現している。

2 特徴的な活動内容

(1) 教科横断的な「おがわ学」の実践

小川町では下里地区を中心に有機農業が盛んである。社会「有機農家の仕事」、総合的な学習の時間「有機で栽培する大豆」、国語「有機栽培 大豆の活用」の各授業では、地域の有機農家の方々がゲストティーチャーとして授業を実施した。

(2) 体験的な学びの支援

上記「おがわ学」の教科横断的な授業では、小川町の在来種「青山大豆」の栽培、収穫体験の支援を実施している。こうした体験に際しては、実際に大豆の根の根粒細菌に着目させて菌類と植物の共生関係を学んだり、実が入らなかった要因等を考察させることにより農業が直面する課題などを学ばせることができた。

3 成果と地域の声

(1) 成果

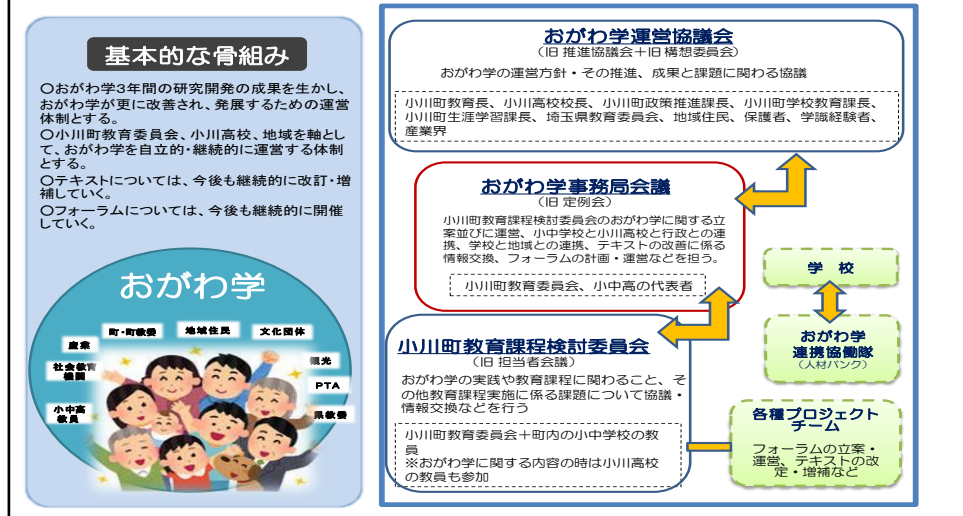
- ・「おがわ学」を活用することで、有機農業を横軸とした教科横断的な授業を実施することができた。
- ・子どもたちにとって、地域の方々がゲストティーチャーとしてお話ししてくれることで、他人事ではなく身近な自分事として考える機会を提供することができた。

(2) 地域の声

- ・地域の多様な魅力を体験的に学んでくれる子どもたちをみていると、ゲストティーチャーとして大変うれしいし、町の将来に期待が持てる。
- ・子どもたちに有機農業のすばらしさや可能性を探究させるのもいいが、農業全体を取り巻く厳しさにも目を向けていく必要がある。有機農業をやりたくても、実際には化学肥料や農薬を使わざるを得ない実態がある。子どもたちにこうした現実をしっかりとつかませた上で、有機農業についてその未来を考えさせる必要がある。

学校基本情報

児童（生徒）数	170名	学級数	8学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (おがわ学コーディネーター)		



〔霜里農場の見学〕



〔青山大豆種まき〕

川島町の実践

1 充実・発展に向けた取組

- (1) 多様な団体とのネットワーク構築
地域学校協働本部を設置して、各種団体のネットワークを構築している。
- (2) 旧小学校を活用した居場所づくり
地域住民の協力を得ることで、廃校になった学校を会場に、各種取組を毎週土曜日に実施して、子供から大人まで、だれでも利用できる居場所づくりを実施している。
- (3) 地域住民による多様な取組
ちいきの学習会、講座、イベント、旧小学校施設の開放を実施している。

2 特徴的な活動内容

本町の地域学校協働活動の特徴は、学校運営協議会に先立って、また、学校応援団とは別組織として、生涯学習課が中心になって、地域の方の協力を得ながら活動を実施していることである。令和元年以降の継続した活動により、地域学校協働活動推進員やコーディネーター（サポーター）が力量をつけつつあり、学校運営協議会が整備された際には、地域の力を学校支援においても存分に活かすことができる可能性がある。

3 成果と地域の声

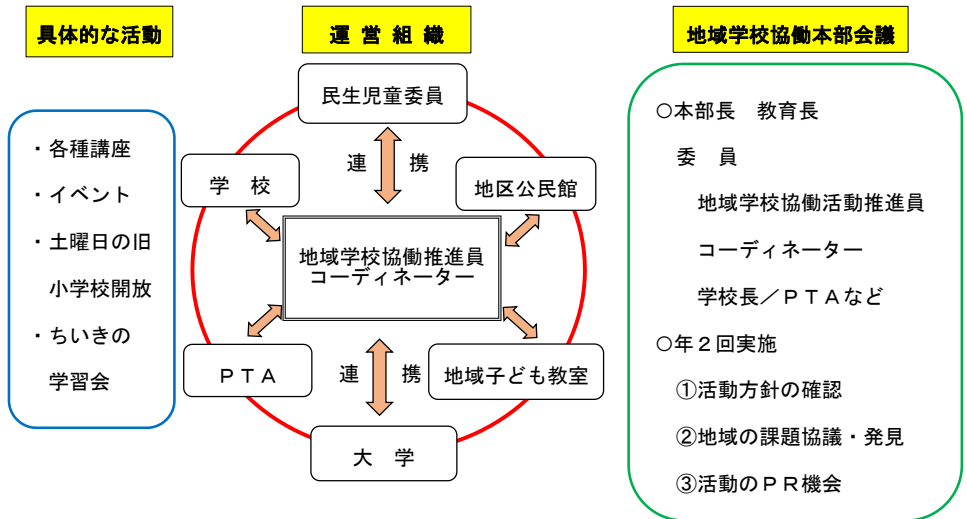
- (1) 成果
 - 実践を通じた人材育成
地域学校協働活動推進員・コーディネーターが、様々な企画を提案して、講座やイベントを実施している。本活動が役場から頼まれた取組ではなく、楽しみながら、「我々の取組」として捉えていることが頼もしい限りである。
- (2) 地域（地域学校協働活動推進員・コーディネーター）の声
 - ・だれでも参加できる居場所づくりの成果
「大人も子供も、集まる場所があるのがすばらしい事だと思う。」
「家族で楽しんでる姿をみて、一緒に成長を見守っている気持ちです。」
 - ・講座やイベントに取組む姿勢が主体的(自分事)になりつつある成果・裏付
「これからもみんなが楽しめることを考えます。」
 - ・地域人材のやりがいの源
「子供たちの笑い声や笑顔が励みになります。」

活動推進体制概念図(対象校:すべての小中学校)

コーディネーター数 30名(推進員2、コーディネーター28)

概念図 地域学校協働活動(通称:ひろば活動)

【活動の目標】 ①地域全体で子供を育てる仕組みづくり ②地域を「げんき」にするための活動創出



【クリスマス de きもだめし】
大勢のボランティアが取組を支えています
子供も参加者も「楽しむ」ことが大切です



【お花の教室】
地域住民の方が講師になり、
様々な講座を実施しています

熊谷市立石原小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

従来から活動していた学校応援団「おやじの会」のネーミングを変更。

- ① 「おやじ」以外の方も参加できるように、
- ② 広く卒業生やPTAのOB・OGも参加できる会にしたい、という主旨で、「いしわラッコ応援団親友（おやとも）」とした。

2 特徴的な活動内容

- ・通学路の交差点に立ち、登校時の安全指導を実施。
- ・登校時、東西南北の門に立ち、検温ボランティアを実施。
児童一人一人の検温カードをチェック。
- ・保健室ボランティアとして、児童の保健指導の補助を実施。
- ・Youtubeを活用したライブ映像配信。運動会の模様をライブ配信した。
PTAと協力し、当日の撮影を担当し、行事後は、DVDの作成や編集を担当。
- ・150周年のために学校の歴史等の学習を学校から配信し、児童と共にオンライン学習。
- ・PTAと連携した活動として、クリーン活動、花いっぱい活動等を実施。
- ・学校や関係機関と連携し、令和4年7月9日 150周年記念式典を開催。

3 成果と地域の声

(1) 成果

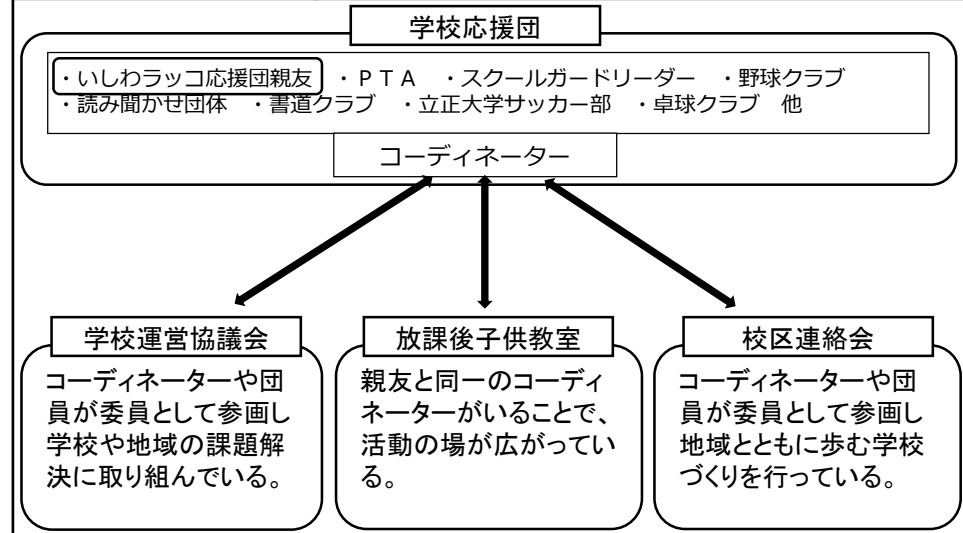
- ・5年生の林間学校代替行事として放課後に学校でキャンプファイヤーを企画、実施。実施にあたり、PTA、地域の方々と連絡体制を綿密に取り、協力することができた。
- ・自治会等と協力し、安全対策で地域パトロールを実施できた。
- ・地元企業や地元ラグビーチームのワイルドナイツと連携して、県営熊谷ラグビー場Aグラウンドにて記念式典のイベントを開催することができた。

(2) 地域の声

- ・来校することで、学校と家庭地域との連帯感が強まった。
- ・地域で子供を育てるという意識が向上した。

学校基本情報

児童数	724名	学級数	27学級
コーディネーター数 (担い手)	1名 (PTA)		



〔150周年記念式典〕



〔5年生林間学校代替行事〕
〔学校でキャンプファイヤー〕

秩父市立吉田小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

幅広い方々に学校応援団に関わっていただくため、自治会の回覧板で募集案内を周知している。コーディネーターについては、現職のコーディネーターに後任の推薦をいただいている。

2 特徴的な活動内容

(1) ミニ龍勢まつり

地域の伝統行事である龍勢の素晴らしさを児童に味わわせ、龍勢の伝統を未来へ引き継ぐために、学校応援団や龍勢保存会の方々を講師に招き、10月から2月までの長期間、3年生の総合的な学習の時間でミニ龍勢まつりの取組を行っている。

この取組の良さは、奉納者抽選会から龍勢の組み立て打ち上げまで、実際の龍勢まつりと同じような段階を踏みながら児童が体験的に学ぶことである。3年生児童が、2月の発表会を目標に、約5ヶ月間かけて協力し創り上げていく学習である。学習においては児童のアイデアや発想を一杯大事にし、グループ毎に独自の龍勢を作成する取組を行っていく。講師の方々には、ただ伝統を継承するためではなく、児童の発想を生かし楽しみながら取り組めるよう工夫して学習を進めるアドバイスをしていただいている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

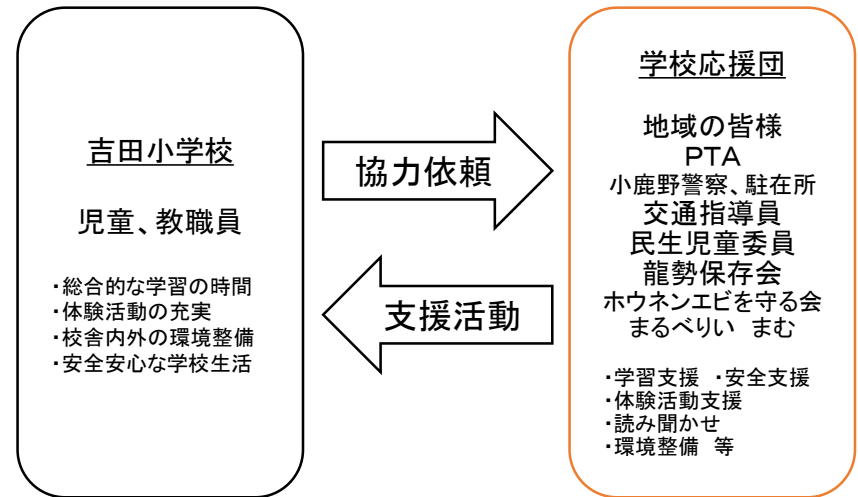
- ミニ龍勢まつり発表会では、一人ひとりが役割を果たし立派に発表する姿が見られる。児童の成長を実感できる取組である。

(2) 地域の声

- 学校応援団や龍勢保存会の方々も、児童とのふれあいを楽しみにしていただいている。地域の温かい支援をいただける取組である。

学校基本情報

児童（生徒）数	171名	学級数	9 学級
コーディネーター数 （担い手）	3名 （元PTA関係者、地域住民）		



〔たが掛け作業の様子〕



〔火薬詰め作業の様子〕

深谷市立桜ヶ丘小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- (1) 組織の整理と会議実施方法の見直し
 - ・コロナ禍による活動停止に伴って昨年度見直した会議の持ち方等を、確認しながら実施した。(構成員に学校運営協議会長を加えることや、必要性の少ない会議については今後も通知のみにするなど)
- (2) 学校運営協議会との連携
 - ・今年度は年度当初から、学校応援団推進委員に学校運営協議会長を加え、同協議会との連携を図り、ニーズを反映しやすいようにした。

2 特徴的な活動内容

- (1) スポーツ少年団等との連携
 - ・施設開放の登録団体(主にスポーツ少年団)と連携し、12月に落ち葉掃きなどの校庭整備を、学校応援団協力のもと実施した。
- (2) 登下校の見守り
 - ・PTAは勿論、スクールガードリーダーや学校応援団の方も中心となって登下校の見守りを行っている。駅に近いことや大通りが多いこともあって、交通事故には注意が必要である。

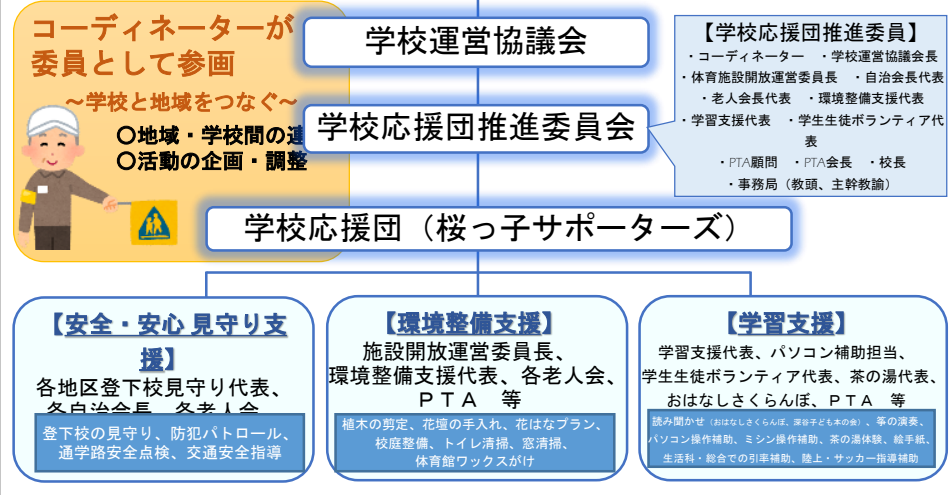
3 成果と地域の声

- (1) 成果
 - ・開放団体との環境整備により、学校教育でも校庭を気持ちよく使用できるようになった。「木の葉がなくなって、転びづらくなった。」という児童の声も聞くことができた。
 - ・登下校の見守りにより児童が安心して通学でき、無事故で過ごすことができた。
- (2) 地域の声
 - ・校庭整備について、応援団推進委員でもある施設開放の委員長の方から、「環境整備をすることにより、自分たちは勿論、児童も施設を使用しやすくなり、恩返しをしたような気持ちになる。」という声をいただいた。
 - ・登下校の見守りについて、スクールガードリーダーから、「やりがいを感じられるとともに、子供たちとも交流ができて元気もらっている。」という声をいただいた。

学校基本情報

児童(生徒)数	531名	学級数	19学級
コーディネーター数(担い手)	1名 (地域学校協働活動推進員)		

深谷市立桜ヶ丘小学校



〔登下校の見守り〕



〔校庭整備作業〕

横瀬町立横瀬小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- (1) 小・中学校の各支援ボランティア名簿の管理、学校応援コーディネーター連絡協議会の運営等を町（教育委員会）が主体となって行っているため、各学校の負担軽減、地域全体で学校応援団事業が推進されている。
- (2) 学校HP、学校だより、学校運営協議会だよりで広く地域に情報発信し、活動の輪が発展し、内容の充実につながっている。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から制限された活動下で、各支援ボランティアが学校と連携を密にし、教育活動の計画と実施をサポートをしてくれている。

2 特徴的な活動内容

- (1) 小学校5年生の総合的な学習の時間で学校応援団の米作り名人5名が講師となり米作り体験に取り組んでいる。制限された活動下で子供達が安心安全に体験活動に取り組めるよう、下記のような教育活動を担当教師と連携してサポートをしてくれている。
 - 米作りの方法をICT機器を活用しての説明
 - 制限下で子供達が体験活動として実施できなかった苗植え、網掛け等の応援団による実施
 また、収穫した米を町内の給食調理場と連携し、給食時に町の小・中学校全校児童・生徒でおいしく食べることで食育につなげたり、家庭科の授業での炊飯に活用したりしている。
- (2) 土曜勉強会（サタスタ）において、学校応援団のボランティアにも講師として参加・指導してもらっている。

3 成果と地域の声

- (1) 成果

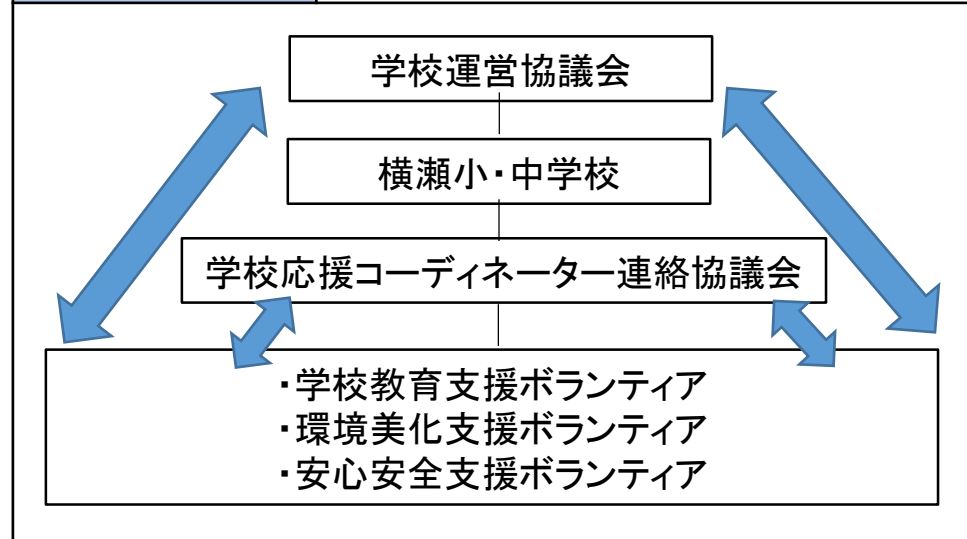
子供達は応援団の方々との交流から広く地域に根ざした学習を教科横断的に学ぶことが出来る。地域の教育力向上の視点でも双方向に意義のある活動になっている。
- (2) 課題

新規人材発掘と後継者の育成が急務である。
- (3) 地域の声

「子供達と一緒に活動するたびにパワーをもらっています。」

学校基本情報

児童（生徒）数	331名	学級数	16学級
コーディネーター数（担い手）	7名 （公民館職員1、主任児童員2、社会福祉協議会1、教育委員会職員2、元PTA役員1）		



〔米作り体験〕



〔土曜勉強会（サタスタ）〕

上里町立長幡小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

幅広い方々に学校応援団に関わっていただくために、保護者をはじめ地域の方々へも募集案内をしている。また、コーディネーターを中心に呼びかけながら人材確保に努めている。

(2) 他団体との連携

学習内容に伴う近隣地区の外部講師（個人・団体）を積極的に招聘している。（車いす体験、琴体験、雅楽体験等）

2 特徴的な活動内容

(1) 学校見守り隊

通学班での登下校の見守りは、スクールガードリーダーや学校応援団の方が中心に集合場所から学校まで、毎日行っている。

(2) 環境整備（樹木の剪定、花壇整備、草刈り等）

各学期に数回、学校応援団の方が中心となって、樹木の剪定や花壇整備、草刈り等を行っている。これまで、職員作業で行っていた作業を学校応援団の方に任せることで、教職員の負担軽減につながっている。

(3) 梨の栽培体験

梨の栽培（受粉、摘果、収穫、剪定）を学校応援団の梨農家と協力して取り組んでいる。体験活動を「郷土を愛する学習」として年間計画に位置付け、生活科や総合的な学習の時間の中で全学年が関わっている。

(4) 野菜栽培体験

学校敷地内にある畑を利用して、低学年を中心に野菜栽培活動を実践している。（1年大根、2年サツマイモ、3年ブロッコリー）

3 成果と地域の声

(1) 成果

- ・コーディネーターを中心に学校支援体制が整っており、教職員の負担軽減につながると共に、教育活動が効果的に実践できた。
- ・地域の方との交流や、異学年間の関わりを通して、充実した体験活動になっている。各校では栽培した野菜等を収穫、調理するなど食育につながる体験もできた。

(2) 地域の声

- ・より学校・関係諸機関と連携し、活動を広げていきたい。

学校基本情報

児童（生徒）数	186名	学級数	8学級
コーディネーター数 （担い手）	1名 （学校運営協議会）		

学校運営協議会

連携

学校応援団 34名

コーディネーターは運営委員を兼ね、会に参加する。協議内容に応援団活動についても加え、他の委員にも理解・協力を得る。

- ・人材確保について
- ・学校支援活動について
- ・学校・児童の様子について 等

活動内容

- 安全 ○読み聞かせ
 - 図書運搬 ○学習支援
 - 昔遊び ○学校農園
 - 環境整備・緑化
- それぞれの活動以外についてもできる限り協力体制をとる。

* 他団体との連携

（伝統芸能保存会、お年寄りの会、町図書館 等）



〔梨の栽培体験（受粉体験）〕

〔学校応援団：下校見守り〕

寄居町立用土小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

充実・発展に向けた取組として、「用土っ子プロジェクト（地域あいさつ・お礼運動）」を実施し、次の2点の効果が得られている。

1つ目は、日常的に活動している地域住民等へ児童が直接感謝の気持ちを伝えることで、地域住民等は嬉しく思い、その活動が報われたと感じ、明日からまた頑張ろうという励みの気持ちになる。地域住民等のモチベーションを高める一番の特効薬は、児童の感謝の言葉である。

2つ目は、児童が大人になった時に、地域を支えることが当たり前だと思えることである。小学校時代に、地域に支えられていたからこそ安心して登下校できたということ、このプロジェクトは印象付ける。何十年先の活動まで、継続的・安定的に実施するための素晴らしいプロジェクトである。

2 特徴的な活動内容

各地区の通学路等にのぼり旗を設置し、防犯意識を高めている。通学路の除草作業時や登下校の見守り活動時に危険箇所について把握し、区長へ報告するようにしている。

のぼり旗の設置や除草作業、危険箇所の把握を主に区長、道路・衛生委員、PTA地区役員が行うことにより、教職員の負担軽減につながっている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

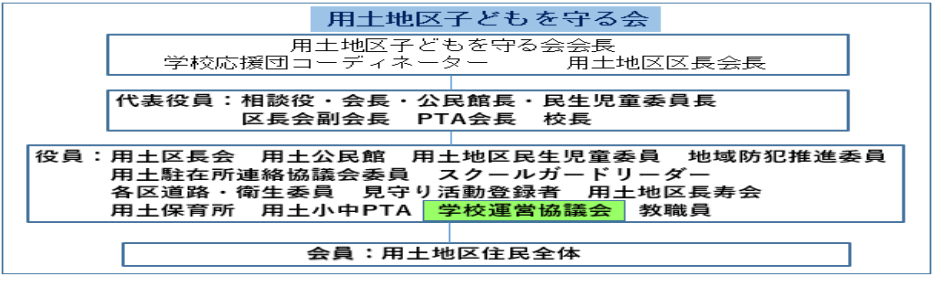
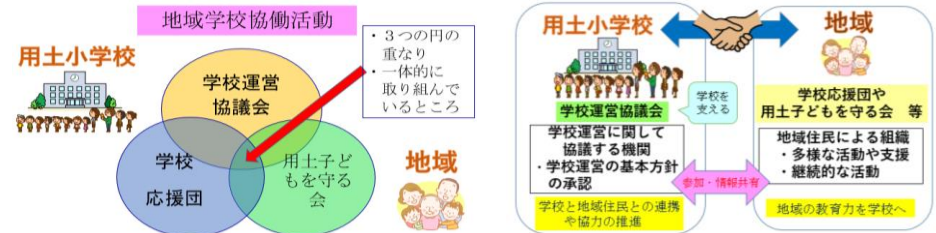
- 令和3年度児童アンケートより「登校班、下校班で約束を守り安全に登下校している」の平均値 R3は3.5 R2は3.5（最大値4）
- 令和3年度保護者アンケートより「学校は安全、健康に配慮している」（「よくあてはまる」・「だいたいあてはまる」と答えた割合）R3は93.4 R2は93.6
- 「用土地区子どもを守る会」の活動により、安心して学べる学校が実現できているため、令和4年度全国学調の結果は、すべての教科で全国平均を大幅に上回った。

(2) 地域の声

- 地域住民等の生きがいや生活のほりあいにつながっており「私たちの方こそ、子ども達から元気をもらっています」という声をいただいた。地域住民等と子ども、地域住民同士のつながりも深まっている。
- 用土っ子プロジェクト後の児童の感想からは「見守り隊の方が、とても喜んでくれて良かった」「涙を流して聞いてくださった方がいました」と地域の方の喜ぶ姿を伺うことができた。

学校基本情報

児童（生徒）数	152名	学級数	8学級
コーディネーター数 （担い手）	1名 （用土地区子どもを守る会会長 兼 用土地区区長会長）		



〔車のマグネットステッカー〕



〔用土地区体育祭でのパレード〕

行田市立埼玉小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

- (1) 組織編制上の工夫
 - ・保護者、地域、自治会、公民館等に連絡し、幅広い人材確保に努めている。
- (2) コーディネーターの選出
 - ・家庭、地域との連携を図る中心として、2名をコーディネーターとして選出し、各活動をスムーズに行えるようにしている。

2 組織と活動

- (1) 見守り隊
 - 児童の登下校の見守りをしている。
- (2) 読み聞かせボランティア
 - 月曜日の朝の活動の時間に読み聞かせをしている。
- (3) 環境応援団
 - おやじの会と連携して、学校ファームの整備や校庭の樹木の剪定、草取り、運動器具の作成等をしている。

3 成果と地域の声

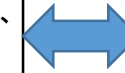
- (1) 成果
 - ・児童の交通事故がなかった。通学路に交通量が多い箇所が多いため、見守り隊の活動が児童の安全な登下校のために不可欠となっている。
 - ・月曜朝に読み聞かせをしていただくことで、児童が心豊かに落ち着いて週のスタートを切れる。
 - ・環境整備等でご協力頂き、学校が美しい環境になった。
- (2) 地域の声
 - ・子供たちと活動することで、自分たちも生き生きとしてくる。
 - ・学校の活動に参加することにより、児童の現状や学校の様子がよく分かる。

学校基本情報

児童（生徒）数	239名	学級数	12学級
コーディネーター数 (担い手)	2名 (地域住民2)		

【学校運営協議会】
地域住民、公民館長、
PTA会長等により編成

【学校応援団】
・学校から募集した地域ボランティアにより編成



【主な活動】
①見守り隊（登下校時の安全見守り）
②読み聞かせボランティア（読み聞かせ活動）
③環境応援団（校地内外の環境整備活動等）



〔読み聞かせ活動〕



〔環境整備活動〕

久喜市立菖蒲東小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 学校運営協議会との連携

地域についてよく知る地域学校協働活動推進委員及びコーディネーターの中で学校運営協議会委員も兼任している方もおり、学校の課題解決に向けて協議を重ね活動を実践している。学校応援団活動の充実・発展のためアイデアを出すだけでなく運営と実際の活動にも携わっている。

(2) 人材の確保

人材の確保については、継続的な課題となっているところであるが、主にそれぞれの委員が活動に興味のある友人等をお誘いしている状況である。学校運営協議会では人材確保の協議を重ねるとともに、ホームページを中心に広く広報活動を展開しているところである。

2 特徴的な活動内容

(1) 「農園活動」

校内にある農園では年間を通してじゃがいもと大根の栽培と収穫体験を行っている。土づくり（トラクターによる耕地と肥料まき）から畝づくり、植え付け、草取り、追肥、収穫までを学校応援団が計画的に実施している。児童にとって、また経験のない職員にとっても貴重な体験ができる時間であり、本校の特徴の一つである。

(2) 学習支援ボランティア

学校応援団組織の中に、「学習支援ボランティア」の方がいる。例えば高学年の家庭科でミシンを使うときは、毎回3名から5名が個別支援に来校している。教員の配置は担任のみなので大きな効果があがっている。またサマースクール（夏休み中の学習）では、個別に支援したり、採点をしたりしているので学力アップにつながるものと大いに期待している。

3 成果と地域の声

(1) 成果

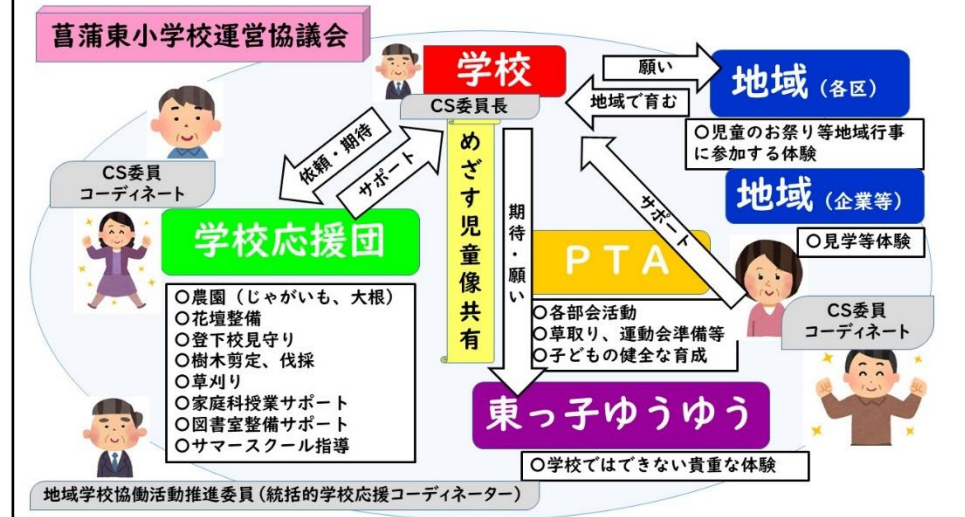
- ・学校応援団の人数 昨年度比2名増
- ・学校評価「地域と連携した教育活動の実践ができている」と回答した保護者 85% (R4)

(2) 地域の声

- ・学校応援団の人材発掘が必要。（学校応援団関係者）
- ・子どもたちが元気で明るく何事も一生懸命。（近隣住民の方）
- ・自分からあいさつする子が増えるとうい。（登下校見守りの方）

学校基本情報

児童（生徒）数	246名	学級数	11学級
コーディネーター数 （担い手）	3名 （元自治会長2、地域有識者1）		



〔農園活動 大根の収穫〕



〔学習支援ボランティア ミシン〕

三郷市立鷹野小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材確保

幅広い方々に学校応援団に関わっていただくために、学校だよりやホームページで募集をかけたり、学校評議員会・PTA理事会等で話題にしたりしている。

(2) 地域人材の活用

児童の学習支援や環境整備の充実のために、地域の方々に協力をお願いし、潤いのある活動をめざしている。

2 特徴的な活動内容

(1) 登下校の見守り

スクールガードリーダーや見守り隊の方々が中心となり、毎日、児童の登下校の見守りを行っている。児童と挨拶を交わしたり、交通安全についての注意喚起の声かけを行ったりしている。

(2) 読み聞かせ活動

読み聞かせボランティアグループが活動し、たかのタイムの10分間を使い、各学級で読み聞かせを行っている。児童は、読み聞かせを楽しみにしている。

(3) 書き初め・書写指導

書き初めの学習や3年生の初めての書写の学習時に指導を行っている。3年生の児童には、道具の使い方や筆の持ち方、運び方等丁寧に指導してくれている。書き初め指導においても各学年2時間ずつ2回の指導を行っている。

(4) 植栽・花壇や畑の手入れ

学校の花壇に花を植える活動や花壇、畑の手入れを行っている。環境を整備したり、潤いを与えたりすることで、児童も植物を大切にすることが育ってきている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

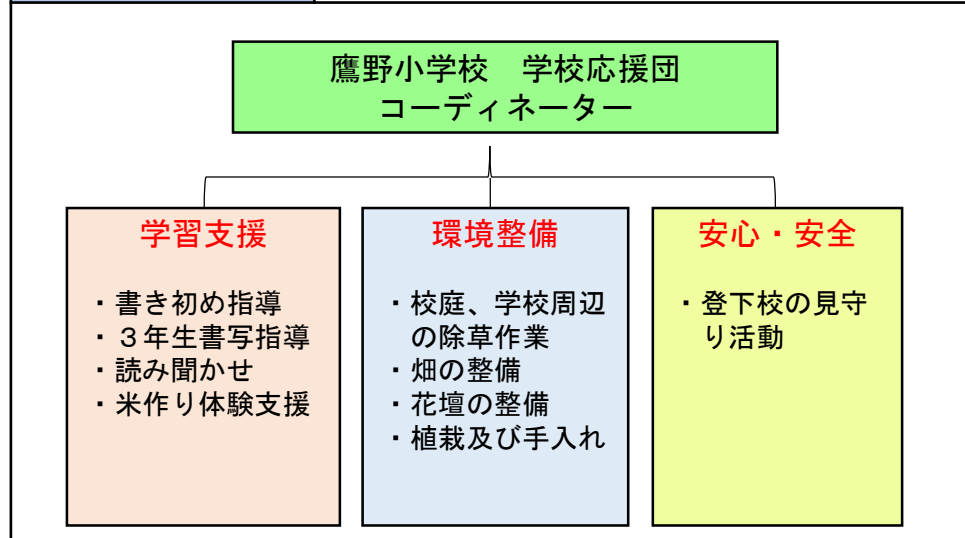
・コロナ禍においても、コーディネーターを中心に応援団の方々が自分にできる事を見つけ、学校を支援してくださっている。地域の方々の支援により、児童が安心・安全にのびのびと学校生活を送れている。

(2) 地域の声

・活動を通し、「ありがとう」の声に励まされ、子どもたちから元気ももらっている。

学校基本情報

児童（生徒）数	322名	学級数	17学級
コーディネーター数 (担い手)	2名 (学校評議員1、PTA会長1)		



〔見守り隊の方による下校指導〕



〔園芸委員会の児童への植栽支援〕

蓮田市立蓮田中央小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

幅広い方々に学校応援団に関わっていただくために、各自治会に募集を呼び掛けていただいたり、特技を持った人材を発掘していただいたりしている。

コーディネーターについては、PTA会長経験者など学校の要望について理解が得やすい人材を、現職のコーディネーターに推薦していただいている。

(2) 学校応援団の活動の広報

学校応援団に支援をしていただいた活動を、学校ホームページに掲載している。また、学校ホームページをコーディネーターに人材確保の広報活動にも活用していただいている。

また、学校応援団の方からは、学校ホームページに掲載されることが支援のやりがいにつながっていると伺っている。

2 特徴的な活動内容

(1) 学校園の土づくり（準備）・除草及び水やり（日常の管理）

園芸の得意な地域の方に、学校園の土づくり、除草、水やりの支援をしていただいている。昨年度までは、学校園の準備に3時間以上、日常の管理に30分以上教員が作業することがあったが、支援をいただくことで教職員が負担する仕事は日常的な管理だけとなり、教職員の負担軽減につながった。

(2) ジャガイモの植え付け

委員会活動の中で、園芸の得意な地域の方の支援をいただき、ジャガイモの植え付けを行った。より専門的なアドバイスをいただきながら体験活動を行うことができ、充実した体験活動を行うことができた。

3 成果と地域の声

(1) 成果

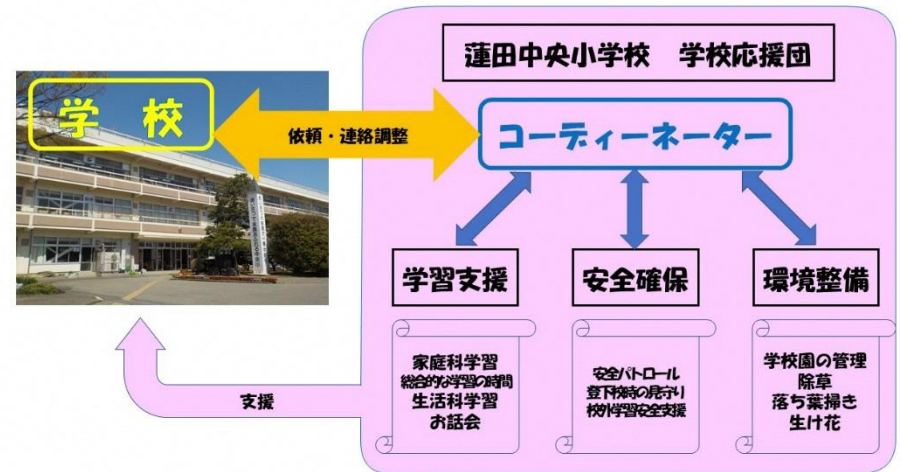
- ・様々な体験活動により、子供たちに豊かな心が育まれている。
- ・学習の準備や環境整備の面で、教職員の負担軽減につながっている。

(2) 地域の声

- ・学校と共に活動しているということが、楽しみになっている。
- ・後継者の人材発掘にも力を入れ、持続可能な活動にしていく。

学校基本情報

児童（生徒）数	547名	学級数	20学級
コーディネーター数 （担い手）	1名 （元PTA関係者）		



〔生け花〕



〔ジャガイモの植え付け〕

宮代町立笠原小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) 人材の確保

現在ボランティア活動に参加いただいている方々を中心に、自身の活動内容を知り合いの方に広報していただき、新規ボランティアの推薦を行っている。

(2) 外部団体との連携

生活科、総合的な学習の時間において1, 2年生の農業体験5年生米作りにおいて株式会社「新しい村」のスタッフと連携し畑、田んぼの提供を受け活動を行っている。

2 特徴的な活動内容

(1) 登下校時の見守り

本校は自由学区制により児童の登校範囲が非常に多く、町内においても電車での通学を行う児童も多数在籍する。そこでスクールガードリーダーを中心に、安全パトロール、交通指導員、保護者による立哨指導を毎日行い、500名を越す児童の登下校時の交通事故は0件である。

(2) 特色ある教育活動

特徴的な校舎、はだし教育、豊かな自然環境により、特色ある教育活動を行っている。5年生の米作り体験では、隣接する農業体験施設「新しい村」の協力により多くのボランティアの方々に参加いただいている。稲わらを活用した「わらじ作り」では地域ボランティアに加え、保護者ボランティアの協力で、鼻緒づくり、編み上げの作業を行い子供たちの貴重な体験を支えていただいている。

3 成果と地域の声

(1) 成果

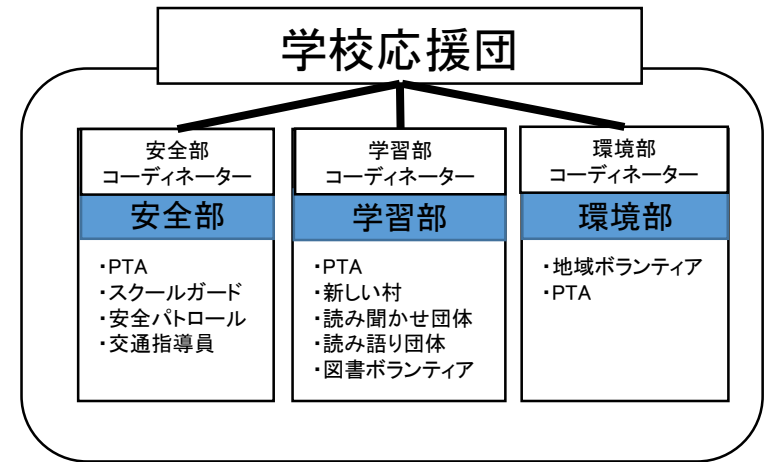
- 学校応援団の方々の協力により、教職員の見守り、準備等に係る負担が軽減し、他の教育活動に時間を使うことができた。

(2) 地域の声

- コロナ禍ではあるが、伝統的な教育活動を継続してほしい。
- 学校応援団の発展と人材不足の解消のためのネットワーク作りの構築。

学校基本情報

児童（生徒）数	527名	学級数	20学級
コーディネーター数 (担い手)	3名 (PTA会長1、スクールガードリーダー1、 学校評議員1)		



〔わらじ作り〕



〔教育活動への協力〕